

クレジット:

UTokyo Online Education 東大FFP 2020 栗田 佳代子

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限って利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



このシラバスは、東京大学フューチャーファカルティプログラムのシラバスであると同時に、第4回のコースデザインの資料としても用いられます。そのため、項目に対して、吹き出しの形式でガイダンスがついております。

## 東京大学フューチャーファカルティプログラムシラバス (第15期版)

内容がよりよくわかるタイトルを、正式な科目名以外につけられることがあります。

オフィスアワーとして、約束してもよい時間帯を明記することもあります。また、アポイントメントをとるときの約束事も一緒に書いておくとういでしょう。

科目名	大学教育開発論
英科目名	Teaching Development in Higher Education
講義題目	「学生が学ぶ授業」を学ぶ
担当教員	栗田佳代子
他研究科との合併	大学院共通科目
繰り返し履修の可否	不可
他研究科生履修の可否	可
関連ウェブサイト	<a href="https://www.utokyofd.com/">https://www.utokyofd.com/</a>
連絡先	*****@*****.***

ここを読めば何が学べて、何を期待される授業なのかがわかるように書きます。  
 ・次のような事項を簡潔に含まれていますか？  
 ・この授業の位置づけ（背景）  
 ・どんなことを学べるのか  
 ・授業形式か  
 ・受講者に求められる態度  
 「だ・である」「です・ます」は、統一されていればどちらでもかまいません。自分の「キャラクター」にあわせましょう。

### 授業の概要

現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活かせることでしょう。

また、新型コロナウイルス感染症への対応のためオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。

シラバスで (コースで、と言い換えてもよいでしょう)、もっとも重要な部分です。

- ・目的は、そのコースの存在意義を表せていますか？
- ・目標は、その目的を具体化したものになっていますか？
- ・目標は「ジャンプすれば届く距離」にありますか？
- ・一つの文章に一つの目標になっていますか？
- ・測定可能な動詞が使われていますか？

## 目的と目標

### (目的)

本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。

### (目標)

- ◇ 高等教育の現状の概要について説明できる
- ◇ デリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる
- ◇ グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける
- ◇ 学生が主体的に学べる授業のデザインができる
- ◇ 基礎知識をふまえた評価をデザインできる
- ◇ 学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる
- ◇ キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる

シラバスがデータベース化されている場合、学生はキーワードで学びたいことを検索します。コースの学習内容を端的に表すキーワードを選びましょう。

- ・学生に見つけてもらえるキーワードになっていますか？
- ・授業を概観できるようなキーワード群になっていますか？
- ・コース終了後には、ここにあげたキーワードが説明できていると望ましいです。

## キーワード

東京大学フューチャーファカルティプログラム 大学教授法 大学教員としてのキャリア シラバス作成 クラスデザイン アクティブラーニング 評価 ルーブリック 模擬授業 ポートフォリオ

このコースがどのような授業形式で進行するのかを記述します。学生に期待する姿勢をここで表明します。

- ・積極的なインタラクションを意識した方法を取り入れることができているか？
- ・ただし、手段が目的化するのではなく、あくまでも学習目的・目標にみあった方法が選ばれていますか？

## 授業の方法

本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。

また、実践を重視するため、実際に授業のデザインやシラバス作成、模擬授業の設計・実施などの課題への取り組みを通して学びます。

コースの各クラスの内容を記述します。単にタイトルだけでなく、内容についても説明があったほうが学生の興味関心をひきます。  
日程が不規則な場合は、スケジュールも明記するとよいでしょう。また、課題についても決まっているのであれば提示しましょう。

## 授業計画

授業は原則下記にしたがって進みます。変更がある場合には予めお知らせします。また、各内容の関係については、本シラバス末の「本プログラムの構成」をご覧ください。

表の利用など見やすい工夫をしましょう。  
要素

- ・ 日程
- ・ 各クラスの内容
- ・ 課題
- ・ (授業形式)

項目 日程	内容	この日に出る課題 (×切日)
開始前		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シラバス熟読</li> <li>・ 研究紹介の発表準備</li> </ul>
DAY1 4/16 or 4/17	<p><b>研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義</b></p> <p>「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。またその参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。</p> <p>演習：1 分間研究紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだことのふりかえり(1w 後)</li> <li>・ 研究紹介の録画提出 (1w 後)</li> <li>・ 研究紹介の相互評価 (2w 後)</li> </ul>
DAY2 4/23 or 4/24	<p><b>クラスデザイン</b></p> <p>授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針や観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の一コマを設計について学びます。</p> <p>学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通し学びます。</p> <p>演習：アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだことのふりかえり(1w 後)</li> <li>・ クラスデザインシート完成 (2w 後)</li> </ul>
DAY3 5/8 or 5/14	<p><b>評価</b></p> <p>授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促しレポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。</p> <p>演習：ルーブリックによる採点とルーブリックの作成、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだことのふりかえり(1w 後)</li> <li>・ 改善用シラバスの準備 (1w 後)</li> </ul>
DAY4 5/21 or 5/22	<p><b>コースデザイン (シラバス)</b></p> <p>シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだことのふりかえり(1w 後)</li> <li>・ シラバスおよびグラフィックシラバスの完成(4w)</li> </ul>

	演習：シラバス改善、グラフィックシラバス作成 ※ 日程が変則的になっているのでご注意ください	後)
DAY5 6/4 or 6/5	<b>授業改善とふりかえり</b> 模擬授業の事例の授業改善を中心しつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。これまでの授業全体を通した振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。 演習：模擬授業検討会、ポスターツアー	・学んだことのふりかえり(1w 後) ・模擬授業のデザイン (次回授業)
DAY6 6/25 or 6/26	<b>模擬授業 ～実施(1)と改善～</b> 4 グループにわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。 演習：模擬授業実施と相互評価	・学んだことのふりかえり(1w 後) ・模擬授業の改善 (次回授業)
DAY7 7/9 or 7/10	<b>模擬授業 ～実施(2)～</b> 2 グループにわかれて第2 回めの模擬授業を実施し、相互評価を行います。 演習：模擬授業実施と相互評価	・学んだことのふりかえり(1w 後) ・模擬授業のクラスデザインシート提出 (次回授業まで)
DAY8 7/16 or 7/17	<b>SAP チャート作成によるキャリアパス展望</b> 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出します。大学教員としてのキャリアパスを展望します。 演習：SAP チャート作成	・学んだことのふりかえり(1w 後)

成績評価について記述します。  
次の事項が含まれていますか？

- ・評価はどのような方法なのか？
- ・どのような採点基準なのか？
- ・どのような配点なのか？

次の点に注意しましょう・

- ・目標にかかげられた事項が評価されていますか？
- ・測定可能な評価方法になっていますか？

## 成績評価方法

授業への参加状況 25%

課題の提出状況および質的評価 75%

(内訳) 100 点満点とした場合の各配点

授業の参加状況 25

個人ワークへの取り組み 10

グループワークへの貢献 15

\* ただし、模擬授業の回については、原則出席すること。2 回(DAY6, DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が 2 回以下」を満たしていても、修了とは認めない。

## 課題の提出状況および質的評価 75

研究紹介の実施 6

シラバス・グラフィックシラバス 15

クラスデザイン 10

模擬授業 20

各回の振り返り 24(3\*8回)

- \* 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組みグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。

この部分は、各課題の目的と採点基準について詳細に明記しているところです。  
各課題をなぜ学生に課すのかが説明できますか？

### 各課題の目的と採点基準

- ・ **研究紹介の実施 6%**

教員視点からの研究紹介の実践を行い、初回講義時の自己紹介の意義と重要性を実感する  
採点基準：研究内容を専門外の人に理解してもらおうとする姿勢

- ・ **シラバス・グラフィックシラバス 15%**

授業内容をふまえ、学生の学びを促進するようなシラバスを作成する

採点基準：<https://cte.virginia.edu/sites/cte.virginia.edu/files/Syllabus-Rubric-Guide-2-13-17.pdf>

- ・ **クラスデザイン 10%**

6分のクラスを、学習目標が達成できるように構成し、実行可能な形式でデザインする

採点基準：目標の設定と内容の整合性、導入・展開・まとめの構成

学生が主体的に学ぶ工夫、実行可能性

- ・ **模擬授業 20%**

これまで学んだことをふまえ初年次教育を想定した6分間の授業を実施する

採点基準：相互評価（目標の設定と内容の整合性、導入・展開・まとめの構成

学生が主体的に学ぶ工夫（ワーク、双方向性）、デリバリー）

- ・ **各回の振り返り 24%(3\*8回)**

毎回の学びや疑問点などをまとめる

採点基準：学んだことや問に応じた考察が記述されていること

使用する教科書がある場合には、明記しましょう。  
教科書として入手可能であるかは確認しましょう。

### 教科書

教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めます。

シラバスを学習ガイドと考えましょう。  
自学自習を進めてほしいとき、どんな書籍が手元があればよいでしょうか。学力が足りていない人には？あるいはよく出来る人には？  
補足説明を書くより単なる書籍の列挙よりは断然親切です。

その他、図書館利用やウェブサイトなど情報のリソースについてもここに含めるとよいと思います。(その場合は、トピックを「リソース」などに変更しましょう。)

## 参考書

参考書・リーディングリストについては適宜指示しますが、代表的なものを下記に示します。

- ・ 栗田佳代子・日本教育研究イノベーションセンター（編）（2017）『インタラクティブ・ティーチング』河合出版  
東大 FFP の内容をベースに開発されたオンライン講座のテキストです。東大 FFP の予習・復習のテキストとして使いやすいと思います。
- ・ スーザン・A・アンブローズほか著 栗田佳代子訳（2014）『大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための七つの原理』玉川大学出版部  
モチベーションやフィードバックなど、研究の知見に基づいた理論の解説と具体的な適用方法について解説された良書です。
- ・ 佐藤浩章編（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部  
授業方法とそのデザインについて、わかりやすく実践的な内容がまとめられています。

前提知識を必要とする場合は、ここに明記しましょう。

例：「記述統計学」を履修済であるか、同等の知識があること。

## 履修条件

前提知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として2単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください。

この授業の受講にかかる注意事項のグラウンドルールを明記します。守ってほしい約束事はここに書きましょう。

受講のルールには、下記のようなことを明記します。明記すべき事項は大学によって異なります。

- ・ 資料の配布方法
- ・ 課題提出のルール
- ・ 剽窃など不正行為への対応
- ・ 受講のマナー（遅刻・早退、飲食、携帯の扱いなど）

## 履修上の注意

### （受講ルール）

- ・ 本授業は一日で2コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4コマ分（2日間）を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしません（原則登録曜日の受講としますが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です）。なお、この例外として、DAY6、DAY7 いずれも欠席となる場合には、4コマ分以内であっても修了とはみなしません（模擬授業の実施が大変重要であるためです）。
- ・ 欠席の場合には授業日午前10時までに欠席届を予め提出すること。無断欠席の場合には、減点

の対象とします。欠席届は受講決定通知において連絡します。

- ・ 連絡事項および資料共有はコミュニケーションツール Google Classroom によって行います。受講決定通知において詳細をお知らせします。

### (受講者決定方法)

- ・ 履修希望者が多数の場合は、原則的にエントリーフォームの記載項目による選考を行います。  
(選考基準)
- ・ 選考時の優先事項として、日本学術振興会の特別研究員採用者および採用経験者を優先します、また、研究科のバランスを考慮する場合があります。エントリーフォームの研究紹介について「専門領域外の人にわかりやすく伝えられているかどうか」という観点も重視します。

### (科目履修登録について)

本科目は大学院共通科目です。受講を許可された方のうち単位取得を希望する人は、各自所属研究科の方法にしたがい、必ず科目履修登録を行って下さい。

### (履修証)

所定の活動を修了した受講者には、履修証を交付します。

このプログラムについての改善の経緯など、学習内容とは直接的には関係のないですが、このプログラムの性格を理解していただく上で価値があると考えられる情報などをのせています。

### その他

- ・ 本シラバスおよび授業内容は、2014 年度に、2013 年度修了生有志による東大 FFP 授業改善勉強会による提案をもとに改訂されました（有志の皆様ありがとうございました）。このように受講生の協力によって進化を続けているプログラムです。
- ・ 東大 FFP には修了生のネットワークがあり、学振申請書類のワークショップや各種勉強会の企画実施等の活動が続けられています。非常勤講師ポストの紹介なども行われています。このネットワークには本プログラムの修了者およびオブザーバーのみ加入できます。
- ・ 本授業は東京大学フューチャーファカルティプログラムとして東京大学在籍者を対象に提供されていますが、他の所属機関の方々には、オブザーバーという制度で若干名の受け入れを行っています。お問い合わせフォーム (<https://www.utokyofd.com/contact/>) にて個別にご相談ください。また本学内教員の方々のご見学も歓迎しております。お問い合わせフォームにてご連絡ください。

学生に伝えたいメッセージなどを書きます。  
モチベーションを高めることにつながる内容がよいでしょう。  
自分の考える学習観なども書くとよいでしょう。

### 受講生の皆さんへのメッセージ

本授業は、2013 年度からはじまった東京大学フューチャーファカルティプログラム(東大 FFP)の一部です。今回は第 15 期の募集となります。教育について真剣に考え続けることで拓かれる自他の可能性を体感してみませんか。

受講者は多様な研究科から集まるため、このプログラムでともに学ぶ多彩な仲間の考え方や研究内容は、教育だけでなく自分の研究にとっても視野を広げたり、知的好奇心が喚起されるなど、大きな刺激となることでしょう。



また、本授業で扱う課題は、シラバス作成や模擬授業の実施など非常に実践的です。ある日非常勤を任されることになった、公募書類でシラバスを求められた、などの状況にそのまま対応できるようなものを作成するつもりで取り組みましょう。

## 本コースのトピックの関係について

下記は、「グラフィックシラバス」といい本プログラムの DAY4 において学習する図です。これをもとに本コースのトピックの関係を説明します。

ロッククライミングを教育に例え、少し先を登る教員に学習者が続き、両者とも上を目指して登っています。どうすれば学生が自ら登っていけるのか、必要な知識を授けサポートするのが教員の役割です。斜めの文字で表現されているのが、本プログラムで扱うテーマです。

少し先を登る教員が、学習者を助けようとして手渡すのが「授業」です。そして、この「授業」が拡大されて右下に表されています。ここでの「授業」は一つの科目を指し「コース」と呼びます。コース全体を通して「目的・目標」があり、その目的・目標を実現するための「内容」、そして、目的・目標の達成を確認する「評価」という構成です。本プログラムでは「コース」のあり方をシラバスの作成という観点から DAY4 でとりあげます。さらに「コース」は、例えば、105 分の「クラス」の集合によって構成されます。「クラス」もまた、「目的・目標」「内容」「評価」からなり、これらについて「クラスデザイン」として DAY2 でとりあげます。また、各クラスの内容を学習者に主体的に学んでもらうため「アクティブラーニング」についてとりあげますが、これについては DAY2 や実際の授業において体験を通して学びます。さらに、「クラス」にも「コース」にも、目的・目標を確認したり、学習を促すために「評価」があります。この評価は DAY3 で学びます。また、教員がいくら良い授業を提供しても、教員が学習者側のモチベーションや熟達の仕方などの理解をしていなければ、学習者の学びにはつながりません。そうした「学習の科学」についても DAY2 で扱います。また、実際学んだことを実践する機会として、「模擬授業」のデザインと実施を行います。これは、DAY5、6、7 でとりあげます。

更に教員自身も身をおく高等教育という環境や自身のキャリアパスについて考える必要があります。高等教育の現状はいわばロッククライミングにおける岩肌の理解に例えられますが、これを DAY1 で、そして自身のあり方や今後について考えることを DAY8 でとりあげます。

## 授業の構成

